

令和6年度 第2号

大社幼稚園だより

令和6年(2024)12月4日



2024年(辰年)が終わり、2025年(巳年)を迎えようとしています。一般に蛇は、気味が悪い執念深いというイメージがある一方、恩を忘れずに返すとも言われ、豊穰神・天候神として信仰の対象とされてきました。脱皮をするので「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起の良い動物とも考えられています。さらに、餌を食べなくても生きながらえるため、「神の使い」として崇められ、蓄財・芸能の女神「弁財天」とのつながりや、神の使いである「白蛇」伝説としても各地に残っています。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われています。私(園長)も来年は、いくつになっても一皮も二皮も剥けるよう努力しますか。



「金魚の心は、何を待っているのか ～ 金魚物語 ～」

園長 大瀧 正紀

私が大社幼稚園に赴任して約9か月が過ぎました。まだ、1年経過していませんので、大社幼稚園に慣れた・分かったとまではいきませんが、日々、粛々と業務を行う毎日が続いています。

さて、そんな大社幼稚園での私の業務の1つに「金魚の餌やり」があります。(この金魚は、昨年度地域の方からいただいた、5匹の出雲ナンキンです。)4月当初は、朝出勤した時と夕方退勤する時に、何となくエサをやっていました。そもそも私は、少年時代は虫取り・魚とりで明け暮れていました。この年になっても、クワガタ虫が手に入るとすぐに虫かごで飼い、家族には「今日から、家族がもう一人増えました」と紹介し、あきれ返られる始末。そのDNAが呼び起こされたのか、だんだんと金魚がかわいくなり、何とか懐かないものかと考えました。「そうだ。パブロフの犬」だ。すぐにミッション開始。エサをやる前には、水槽の前に立ち、3つ数えてから、水槽の右横の中心部を3回”トン・トン・トン”と。最初は案の定、水槽を叩くたびに金魚は驚いて、素早く反対方向に離れていきました。ここからが戦いです。とにかくこれを繰り返すのみ。やがて、ついにある朝変化が現れました。一匹の一番赤い金魚が、驚くことなく、水面で口をパクパク開けて餌を待つ仕草を。やりました。ついにやりました。最初の一步が動き出しました。その後は、後を追うように他の金魚も次第につられて、餌を求める仕草を。ついには、観光地のコイ状態(大袈裟ですが)



確かにパブロフの犬は、「条件反射・快樂記憶」なのかもしれませんが。しかし、食事の瞬間が一番無防備な状態であり、最大の安心が必要です。ここには、単なる条件反射だけでなく、私は「生命の心」があると思います。先般、「木」は物質を放出してお互いに連絡を取り合っている、ということ聞きました。あの”トン・トン・トン”にも、実は目には見えない、何か伝え合うものがあるはず。子どもは、常に同じ遊びや動作を繰り返したり、同じ本を繰り返し読んだりします。大人なら、すぐに飽きてしまいますし、繰り返せば繰り返すほど、ほとんど疲れてしまいますが、子どもは結論が分かっていることに、安心を感じ繰り返すことを執拗に要求するのだそうです。”トン・トン・トン”、不安をもたらすのではなく、利をもたらすと共に「信頼(安心)」をもたらす音(振動)なのかもしれません。信頼とは、すべてのつながりの原点なのかもしれません。そう言えば、そこに目をつけたのが、あのメトロン星人でした。



普段の幼稚園の様子は、HPで随時掲載しています。ご覧ください。

2学期の主な活動

年長組7名が、サンレイクで2日間(日帰り)のわくわく活動を行いました。サバニなどの体験を通して、一回りも二回りもたくましくなりました。



わくわく活動



稲刈り

サツマイモ掘り

焼き芋パーティー

前日までの雨で、園庭での開催が危ぶまれましたが、当日は晴天のもと、賑やかに親子がふれあいながら、とても楽しくほのぼのとした運動会となりました。

秋のなかよし運動会

鶴鷺敬老会交流会

ゴビウスに出かけました。水辺の生き物を観察したり、ザリガニ掴みに挑戦したりと、とても楽しい時を過ごしました。



秋の遠足



園児募集



来年度の園児を募集しています。詳細は出雲市のHPに掲載されていますのでご覧ください。また、申込やお問い合わせは大社幼稚園(53-2225)まで。



3学期は、「運営協議会だより」を発行する予定にしています。